

# 上級ミクロ経済学

## 消費者理論 図解補足ノート 2

石原章史

財務省 財政経済理論研修 2020

## 4 厚生の定量化

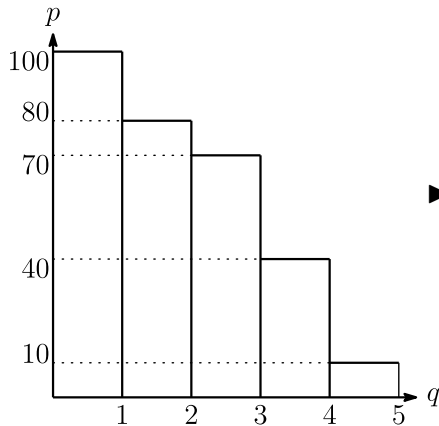
古典的消費者余剰: 5 人の例

- ▶ 今、1 単位の購入を検討している 5 人の消費者がいて、それぞれ
  - ▶ A さん: 100
  - ▶ B さん: 80
  - ▶ C さん: 70
  - ▶ D さん: 40
  - ▶ E さん: 10

まで支払ってもいいと考えている  
(支払い意思額 [willingness to pay])

## 4 厚生の定量化

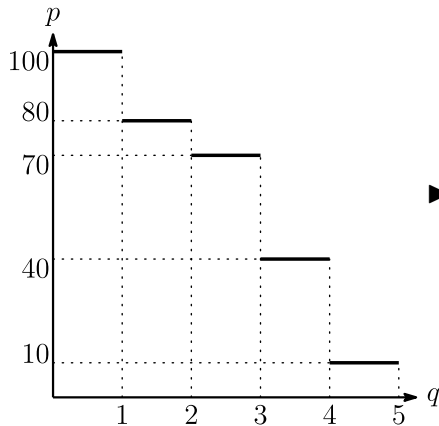
古典的消費者余剰: 5 人の例



► 各人の支払い意思額  
を並べる

## 4 厚生の定量化

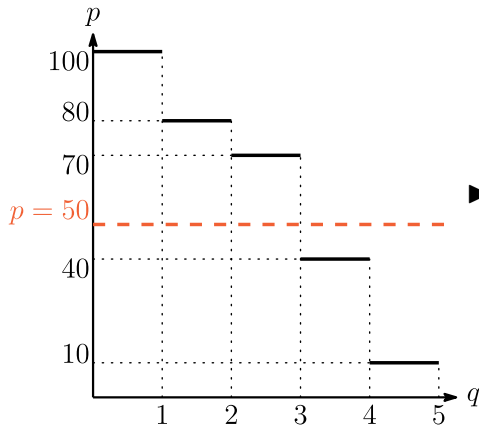
古典的消費者余剰: 5 人の例



► 太線が需要曲線に相当する

## 4 厚生の定量化

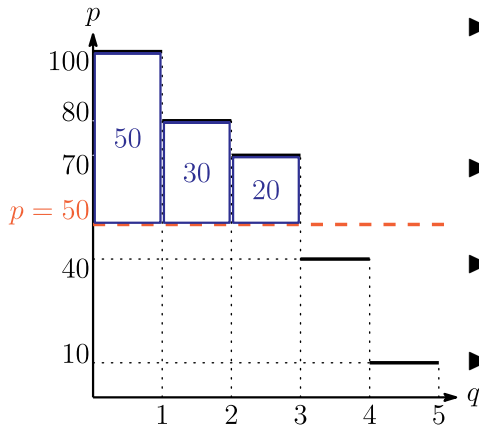
古典的消費者余剰: 5 人の例



► 財の価格を  $p = 50$  とする

## 4 厚生の定量化

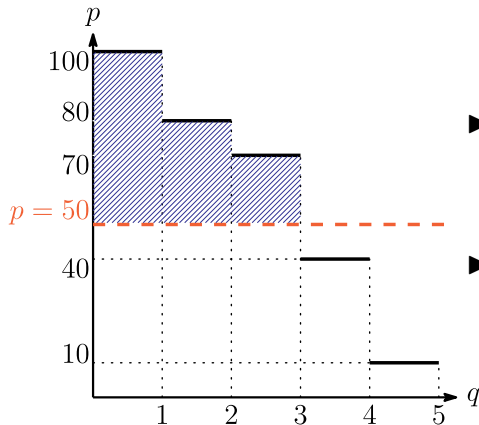
古典的消費者余剰: 5 人の例



- ▶ A さん: 購入し、  
 $100 - 50 = 50$  の  
余剰
- ▶ B さん: 購入し、  
 $80 - 50 = 30$  の余剰
- ▶ C さん: 購入し、  
 $70 - 50 = 20$  の余剰
- ▶ D さん、E さん:  
購入しない

## 4 厚生の定量化

古典的消費者余剰: 5人の例

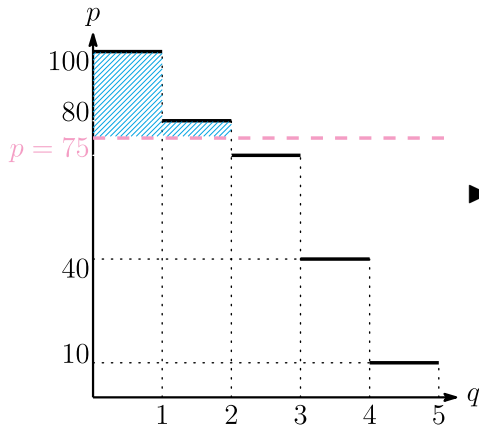


► 需要曲線と価格には  
さまれた斜線部が消  
費者余剰に対応する

► 消費者余剰:  
 $50 + 30 + 20 = 100$

## 4 厚生の定量化

古典的消費者余剰: 5人の例

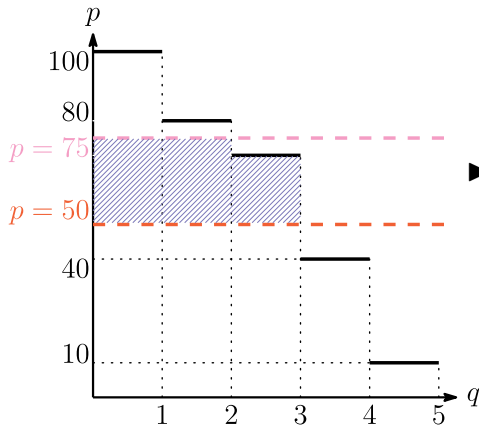


►  $p = 75$  の時の消費者  
余剰:  $25 + 5 = 30$



## 4 厚生の定量化

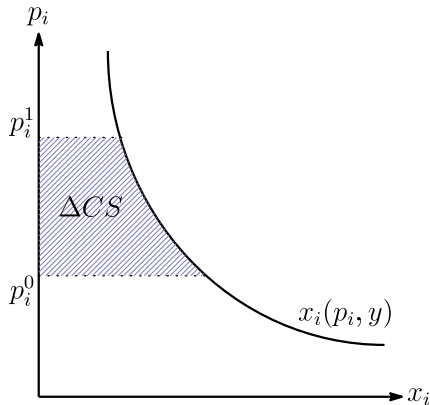
古典的消費者余剰: 5 人の例



▶ 斜線部:  $p = 50$  から  
 $75$  へ変化したとき  
の消費者余剰の変分

## 4 厚生の定量化

古典的消費者余剰: 連続的需要関数



- ▶ 連続的な需要曲線でも同様に消費者余剰の変分を定義

## 4 厚生の定量化

古典的消費者余剰: 注意

- ▶ 効用最大化問題から導出された需要関数  $x_i(p, y)$  は支払い意思額に関する情報は一切入っていない
- ▶ よって、需要関数から導出された消費者余剰には原理的には定量的な意味はない
- ▶ 補償変分や等価変分との関連性の議論は消費者余剰に何かしらの定量的な指標を与えることを目的としている